

第6章 学生・就職支援

6-1 情報教育センター

達成目標

社会での活躍を期待し、情報教育を中心に倫理観・道徳観を育み、適切な情報管理能力を身につけさせる。

目標

情報教育センター開講科目の情報教育基礎科目の出席者数に対する単位取得者数を増加させる。

現状説明

専任教員と非常勤講師を含めた年2回の情報教育説明会等を通じて、同一科目での講義担当者同士が授業に関する様々な情報交換を行い、FD活動の一環として授業改善を図っている。一例として、実習問題や課題の統一を図り、小テストや期末テストの問題を検討・調整するなど、単位取得率の向上を目指している。なお、情報教育センターでは他部署との合同FD研究活動を含めて春・秋セメスターに、それぞれ2回ずつ、計4回/年のFD研究活動を実施し、授業に関する問題点や授業改善に関する情報を共有しながら、授業改善を行っている。また、実習の中でビジネスレターや報告書の書き方など、社会人としての文書作成や一般常識を教育しながら、情報を取り扱う者としての倫理観・道徳観を育み、適切な情報管理能力を身につけるように組織的に努力をしている。特に、受講者が多いシステム入門（A，B）とプログラミング科目を対象とする単位取得者数と講義出席者数に対する単位取得率を増やすように組織的に対応する事で目的の実現を図っている。

点検・評価

<行動計画内容の実現度> S

当該目標の達成度を示す指標としての単位取得者数（単位取得率％）は、2009年度の春学期 779名（85.3％）、秋学期 819名（82.3％）、2010年度の春学期 848名（83.9％）、秋学期 1030名（87.4％）、2011年度の春学期 1677名（84.2％）、秋学期 1672名（88.0％）、2012年度の春学期 1646名（83.6％）、秋学期は約2100名（85.0％）、2013年度の春学期 3974名（78.2％）、秋学期 3800名（80.0％）と増加しており、2013年度は前年度のほぼ倍以上に増加しており、2009年度の約4.7倍以上に達している。これらの状況から、行動計画の内容は計画通りに行動計画内容を達成しているといえる。従って、行動計画内容の達成度は「S」と自己点検・評価している。

<成果と認められる事項>

特になし。

<改善すべき事項>

特になし。

今後の改善・改革に向けた方策

<長所の維持・伸長方法>

特になし。

<改善方策>

特になし。

6-2 教学部

達成目標（1）

退学者・長期滞留者を半減させるために、学生支援システムを活用して原因の分析を行い、必要に応じて学生の勉強面及び生活面のケア（学修上の指導や、奨学金の拡充による生活面のケア等）を行う体制を構築する。

目 標

行動計画内容（a）：各校舎の教学課等を中心に、学部学科と連携し、就学不適應者をサポートする。

行動計画内容（b）：学生支援システムと出席情報システムの連携。

行動計画内容（c）：湘南学生支援課を中心に、奨学金拡充に向け、問題点の解決案を東海大学奨学金委員会において検討する。

行動計画内容（d）：退学者理由の分析。

現状説明**行動計画内容（a） 具体的取り組み**

GPA 数値と修得単位数などの指標を基に、問題点に対する解決案を検討する。

行動計画内容（b） 具体的取り組み

学生支援システムと出席情報システム・出席収集システムが連動したシステムを構築した。

行動計画内容（c） 具体的取り組み

現在の奨学金利用状況を確認及び分析を行い、学部奨学金の年間採用の形態から、 Semester 制度に対応した半期採用の形態に変更するために、規程の改訂案を東海大学奨学金委員会に提案した。

行動計画内容（d） 具体的取り組み

過去の退学理由データ集積及び分析を行うとともに、退学者数及びその理由等を常務理事会等に報告した。

点検・評価**<行動計画内容（a）の実現度> A**

各校舎から集めた指標データに基づき、現状把握及び指導上の問題点の検討を行い、今後の新学修指導体制を検討し、問題解決をしてきた。

<行動計画内容（b）の実現度> S

昨年度より本格稼働している。出席情報集積率は、学科単位では、ほぼ全ての学科で科目数に差はあるが順調に運用されている。

<行動計画内容（c）の実現度> S

奨学金制度の再構築の一環として、学部奨学金の規程改訂がなされ、年間採用の形態から、半期採用の形態に変更された。

<行動計画内容（d）の実現度> B

年度別（過去5年間） Semester別に退学及び除籍者数一覧表及びその理由別一覧表を作成し、学部長会議に報告し、全学において課題についての認識を共有した。

<成果と認められる事項>

退学理由のデータ化により、全体的傾向及び社会的状況と退学理由に相関があることが判明した。この成果を継続的に収集している。

学生情報専門部会にて、出席情報を簡便に収集できる収集システムの仕組みを検討し、運用を実現することができた。

<改善すべき事項>

校舎ごとで支援体制が異なるため、関係部署との連携が継続的に必要である。

学部学科間の格差があることから、その差を解消しながら、検討する必要がある。

経済的理由で大学を去る学生に対しての奨学金希望の有無等の調査・分析を実施する。

今後の改善・改革に向けた方策

<長所の維持・伸長方法>

退学・除籍のデータを定期的に、学部長会議、大学院運営委員会に報告し、情報を共有するとともに、初年次教育からの学生指導の徹底化を各学科に対し、継続的に啓発していく。

<改善方策>

各校舎の学生サポート組織体制及び関係部署との連携体制を検証のうえ改善するとともに学部間格差を解消するため、学生指導対象者の相談結果を学生支援システムに反映させるよう、各種会議を通じて継続的に啓発していく。

達成目標（2）

キャリア教育を充実させ、インターンシップの単位化を進めるとともに、企業等の見学の機会をより多く設ける。

目 標

行動計画内容（a）：カリキュラムへの展開。

行動計画内容（b）：インターンシップなど体験型学修の授業科目への展開。

行動計画内容（c）：キャリア教育のカリキュラムへの導入推進。

現状説明**行動計画内容（a） 具体的取り組み**

履修人数の推移及び分析を実施した結果、カリキュラムの科目区分Vに科目を増設、開講クラスの拡大と受講環境の拡張を実現した。また、開講コマ数の適正化及び適正コマ数に見合う担当教員数を確保した。

行動計画内容（b） 具体的取り組み

インターンシップ科目の調査を継続的に行った。

行動計画内容（c） 具体的取り組み

現在のキャリア科目の調査及び検証を行い、学科でのキャリア教育と大学としてのキャリア教育を明確化するとともに、カリキュラム編成時のガイドラインを作成した。その成果は常任教務委員会で周知された。

点検・評価**<行動計画内容（a）の実現度> S**

学部学科では、主専攻科目としてインターンシップ科目の開設が拡大した。

<行動計画内容（b）の実現度> B

インターンシップの実施状況の結果を、授業科目の再構築に役立てられた。

<行動計画内容（c）の実現度> A

カリキュラム改訂に従い、順次学部学科のカリキュラムに設置を進めてきた。

<成果と認められる事項>

体験型学修の単位付与等には課題が残るが、充実したキャリア教育の枠組みを構築することはできた。

<改善すべき事項>

関連科目の今後の開講クラス数や教員数の適正化を図る。

受入企業と大学が求める教育目標の連動性を図り、大学の求める教育目標を明確化する。

今後の改善・改革に向けた方策**<長所の維持・伸長方法>**

特になし。

<改善方法>

教員補充、開講コマ数拡大など、学生の履修しやすい環境改善を実施していく。

実施にあたっての大学が求める教育目標が実施できる企業を選定する。

体験型学習の単位付与には、実施方法及び時間数などの問題もあることから、原案を作

成し、常任教務委員会で継続的に審議する。

達成目標（3）

就職支援を強化することにより、就職率を増加させる。

目 標

就職説明会の拡大。

現状説明

〔伊勢原教学課〕

キャリア支援センターとともに、健康科学部生の動向の分析及び地域性を把握し、学生の希望収集システムを就職委員長と共に改修した。

〔代々木教学課〕

観光学部1期生（4年次生）の、学生個々の希望・特性を十分に把握し、きめ細かな就職支援を実施した。

点検・評価**<行動計画内容の実現度> A**

〔伊勢原教学課〕

学生の希望収集システムを就職委員長と共に改修した結果、学生の動向把握が良く出来、説明会が実施出来たので、「A」評価と自己評価できる。

〔代々木教学課〕

観光学部学生の特徴に合わせた業界研究を含め、就職説明会や模擬面接等の就職支援行事を実施した。

<成果と認められる事項>

〔代々木教学課〕

キャリア支援担当者だけでなく、法人を含む校舎全体の協力の下、模擬面接を行うなど支援を展開できた。

〔伊勢原教学課〕

看護学科においては、東海大学医学部付属病院の説明会を4月と5月に2回実施した。また、8月には保健師を招いての懇談会を実施した。

社会福祉学科においては、6月に合同説明会、セミナーは6月と7月の2回実施した。

<改善すべき事項>

〔代々木教学課〕

企業等の動向を注視し、システムを活用のうえ、より早期の対策を立案・実行する。

〔伊勢原教学課〕

地域社会・企業の動向を注視し、システムを活用のうえ、より早期の対策を立案・実行する。

今後の改善・改革に向けた方策**<長所の維持・伸長方法>**

特になし。

<改善方法>

〔伊勢原教学課〕

キャリア支援センター及び学科教員と定期的に早期に協議のうえ計画・立案する。また、前年度のシステムを評価し、次年度の説明会を計画する。

〔代々木教学課〕

観光学部の特徴を活かした就職指導とするため、キャリア支援センター及び学科教員と定期的に協議の上、今後の説明会を計画・立案する。

達成目標（4）

精神的に不安定な学生をケアするために、学生相談機能を強化する。

目 標

行動計画内容（a）：学内関連部署と連携の下、学生相談業務の充実を図る。

行動計画内容（b）：Bab News、相談対応事例集の継続刊行

現状説明**行動計画内容（a） 具体的取り組み**

〔湘南学生支援課〕

当該部署間において、その都度対象となる学生を特定した情報交換を行い、早期からの対応を実施した。

〔清水教学課〕

支援を必要としている学生に対してその都度、関係者・関係部署による連携対応、連携支援を行い授業等の出席や学生生活が可能となるよう環境調整を行った。

今年度は特に、学生を支援する教職員、保護者に対しての相談(支援)も数多く実施した。

また、特定の教職員・部署への負担が集中しないよう、それぞれの役割分担が明確になるように調整を行った。

行動計画内容（b） 具体的取り組み

BaB News の 106 号紙面において、病的な捉え方でなく「心」を広く捉えた内容で編集する。

点検・評価**<行動計画内容（a）の実現度> A**

〔湘南学生支援課〕

適宜、情報交換会を開催し、各部署協力のもと対応ができた。相談員の育成を図ることは他の業務等の関係で実施できなかった。

〔清水教学課〕

各部署間における日常的な情報共有が行え、それぞれの持つ役割分担において学生のサポートを実行することができた。

サポートを受ける学生も混乱なく安心した学生生活をおくれた。

<行動計画内容（b）の実現度> A

年1回の特集記事を編集することができた。

<成果と認められる事項>

〔清水教学課〕

連携支援を経験した教職員が増えたので、「心理的サポートを必要とする学生」に対する対応、支援等の知識や情報が共有出来て、問題を抱えながらも学生生活を続ける学生への理解が深まった。

また、支援する側それぞれのサポートの役割分担が明確になり、適切な支援が実行できるようになった。

<改善すべき事項>

連携対応、連携支援の必要性が増し、日常的な連携サポートが行われていく中、個人情報取り扱いについて細心の注意をする。

今後の改善・改革に向けた方策

<長所の維持・伸長方法>

特になし。

<改善方法>

学生相談業務体制の構築に向け、カウンセラーの増員等を関係部署と協議する。

清水校舎において、特に、個々の教職員間の裁量に任されている学生対応の連携において定期的且つ継続的な情報交換や効果的な連携のための研修会が必要である。

達成目標（5）

社会での活躍を期待し、情報教育を中心に倫理観・道徳観を育み、適切な情報管理能力を身につけさせる。

目 標

カリキュラムへの展開。

現状説明

情報科目の履修者データの集積を行い、履修者数を比較し、人気科目と不人気科目の選別を実施した。その結果に基づき、開講クラス数の検討など時間割編成に反映させた。

点検・評価**<行動計画内容の実限度> A**

情報教育センター、総合情報センターとの三者共通認識に基づき、開講状況の集積結果を時間割編成に反映した。

<成果と認められる事項>

履修実績に基づき、有益な時間割編成が実現した。

<改善すべき事項>

履修人数や履修制限を実施した科目を継続的に調査し、適正な開講クラス数の編成を実現する。

今後の改善・改革に向けた方策**<長所の維持・伸長方法>**

特になし。

<改善方法>

適正開講に向け、開講曜日・時限及びシラバス内容を三者で協議のうえ継続的に問題を解決する。

6-3 キャリア支援センター

達成目標（1）

キャリア教育を充実させるため、本学独自のインターンシップ制度「東海JOB-LEAGUE」で、学生を受け入れている企業数を60社から各年次に受入れていただける企業数を増やすとともに、インターンシップ実施にあたり学内での周知を図る。

目 標

企業に対して現状（1回）のインターンシップに関する説明会の回数を増やす。

現状説明

各学部の就職委員会でインターンシップの実施、必要性を説明し、理解と協力を得られることに努めた。併せて、地区後援会総会および保護者向け就職説明会にてインターンシップの重要性をご理解いただき、参加への促進に努めた。

参加学生へは、事前事後の研修を実施し、体験後のフォローにも努めた。

「体験報告会」告知DM葉書を保護者住所宛に、後援会総会前に発送し、保護者からの参加要請を依頼した。

点検・評価**<行動計画内容の実現度> B**

説明会開催数も昨年同様の高輪校舎での1回開催となった。受入企業数は、昨年同様の68となった。

しかし九州地区では、熊本・阿蘇キャリア支援課担当者が直接企業へ出向き、本学学生受入れを直接依頼し、説明会同様の説明を企業へした。

<成果と認められる事項>

結果、九州地区とりわけマスコミ業界の数が増え、同地区や同業界を希望する学生の満足度は上がったと推測される。

九州キャンパスおよび九州出身者は参加し易くなった。

<改善すべき事項>

今後の受入れ企業の開拓の際、人気業界を意識して依頼をする。

今後の改善・改革に向けた方策**<長所の維持・伸長方法>**

現状は、2年次生の2月～3月実施を中心に「東海JOB-LEAGUE」を開催しているが、就職スケジュールの変更に伴い、3年次生の夏季休暇期間の実施についても企画の段階で必要である。

<改善方策>

企業への依頼の際、夏季休暇期間についても積極的に提案および依頼する。

達成目標（2）

就職支援を強化することにより、学生の就職に対する満足度を上げる。現状の満足度を100として各年次に満足度を向上させる。

目 標

キャリア支援課の学生対応、相談を強化する。現状（6名）のカウンセラーの人員数の増加を図る。

現状説明

各キャンパスとも地元ハローワークやジョブ・カフェと連携し、定期的（2～3日/週）に相談員の派遣があり、学生相談員不足は補えた。

特に、就職活動時期後半や障害を抱えた学生への支援では、目を見張るものがあり、支援を受けた学生からは好評であった。

点検・評価

<行動計画内容の実現度> S

大学の専任職員ではないが、行政側の協力もあり、相談員は増え、目標は大幅に達成した。

<成果と認められる事項>

経費（人件費）が掛からなかった。

<改善すべき事項>

「満足度」を計る物指しとして、支援を受けた学生へのアンケート調査を実施する。

今後の改善・改革に向けた方策

<長所の維持・伸長方法>

ハローワークの相談員が派遣されことにより、大学に無い求人情報（特に地元）をタイムリーに得ることが出来、学生へのサービス提供はより増えた。

相談員派遣については、大学と各ハローワークとの強力なパイプ維持を努める。

<改善方策>

確実な満足度を計るためのアンケートを設計し、実施する。

6-4 健康推進センター

達成目標

精神的に不安定な学生をケアするために、学生相談機能を強化する。

目 標

行動計画内容（a）：担当者の資質能力の向上を図る。

行動計画内容（b）：担当者間の連携強化を図る。

現状説明

行動計画内容は、2012年度途中から（a）及び（b）に計画内容と実施計画を変更して、以下の取組を行った。

行動計画内容（a） 具体的取り組み

健康推進センター所属の担当者の資質能力の向上を図るための学生のメンタルヘルスに係る研修参加は次のとおりであった。

2012年度の研修参加は、「第50回学生相談研修会」（主催：日本学生相談学会）に3名のカウンセラー、「第50回全国大学保健管理研究集会」に保健師3名、事務職員1名「第59回日本学校保健学会」に保健師1名であった。

2013年度の参加研修会は、「第51回学生相談研修会」（主催：日本学生相談学会）に3名のカウンセラー、「平成25年度障害学生支援研修会」（主催：独立行政法人日本学生支援機構）に保健師1名、「第51回全国大学保健管理研究集会」に保健師3名、「第60回日本学校保健学会」に保健師1名であった。

行動計画内容（b） 具体的取り組み

健康推進センター内では、2012年度・2013年度とも、湘南健康推進室の保健師とカウンセラーとの間の連携協力を図るため、年間2回（春学期と秋学期）、保健師とカウンセラーの打合せを実施した。

一方、学部等のFD活動等への協力連携の一環として、学部等からの依頼に基づき、湘南健康推進室では、2013年度において次のとおりカウンセラーを派遣して説明をおこなった。

- ・ 8月20日・9月6日・9月11日開催「さわやかコミュニケーション～アサーション・トレーニングから学ぶ～」(学部支援課主催)
- ・ 10月9日開催「現代文明論2ーストレス・マネジメントに関する講話」(政治経済学部主催)
- ・ 7月1日・3日開催「「卒後教育の一環としての「メンタルトレーニング」」(医学部附属病院看護部主催)
- ・ 11月13日開催「FD研究会」(法学部・法学研究科FD委員会主催)
- ・ 2014年3月7日開催「学生対応力向上プロジェクトセミナー」(教学部学生対応力向上プロジェクト主催)

点検・評価**<行動計画内容（a）の実現度> A**

「学生相談研修会等への担当者の参加が、3割以上（2012年度）、5割以上（2013年度）」という行動目標に対して、健康推進センター所属のカウンセラー8名・保健師7名・合計15名中、2012年度は7名の参加、2013年度は8名の参加があったので、実現度は「A」と自己評価する。

<行動計画内容（b）の実現度> B

2013年度の行動目標である「医師・保健師・カウンセラーの合同カンファレンスの実施回数が2回以上」の目標に対して、保健師・カウンセラー打合せは実施されたが、精神科管理医を含んだカンファレンスができなかったことから「B」と自己評価する。

<成果と認められる事項>

各学部等からの依頼に基づき、健康推進センター所属のカウンセラーが学生カウンセリングの現状と対応知識等を説明することにより、教職員間の連携を図ることができた。

<改善すべき事項>

保健師、カウンセラー、精神科管理医によるケース・カンファレンスを実施して、担当者間の連携を強化すべきである。

今後の改善・改革に向けた方策**<長所の維持・伸長方法>**

学部等のFD活動の一環として健康推進センターが提供できるプログラムを積極的に学部等へ発信する

<改善方策>

精神科管理医の協力を得て、具体的なケースを想定したカンファレンスを実施する。